



## 『みんなで考える、これからのまちづくり』

バリアフリーやユニバーサルデザイン等の分野において先進的に活躍されている方のもとを訪問し、当事者目線の情報発信を目指している『交通バリアフリー通信』。

第4回となる今回ご協力いただいたのは、NPO法人呉サポートセンターくれシェンドの森理事です。ご自身も車いすユーザーとして生活されている中で、積極的にバリアフリー化の推進に携わり、呉のまちづくりに大きな影響を与えてこられたご経験から、これまでの活動と今後の目標について伺いました。

### 【今回ご紹介するのはこの方！】



### 森 勝利 さん

NPO法人呉サポートセンター  
くれシェンド 理事  
バリアフリー研究会 代表

### ◆くれシェンド設立の経緯をおしえてください。

40年ほど前に車いす生活となり、地元の呉に戻った際、まちのバリアフリー化が一切進んでおらずあまりの生活しづらさに驚きました。病院へ通院するのにも、公共交通での移手段がなく、市役所等の公的施設でさえバリアフリー化されていない状況でした。その後車いす利用者を中心としたクラブの結成を経て、2000年にNPO法人呉サポートセンターくれシェンドを設立しました。この法人では、バリアフリーのまちづくりを推進することを目的として、まちの点検活動、行政への提案、講演会や研修会・勉強会を通して、すべての人にやさしいまちづくりを模索しています。2011年からは、バリアフリーツアーセンターも開設しました。ここでは、県外から広島に旅行に訪れたい方や、逆に広島から県外へ行きたい方からの問い合わせを受け、全国各地にあるバリアフリーツアーセンターのネットワークを使って、安心して旅行ができるよう情報提供をしています。

### **◆バリアフリーツアーセンターにはどのような要望が寄せられますか。**

最近だと、呉市をモデルとした『この世界の片隅で』というアニメーション映画の影響がかなりあります。先日も車いす利用者の方から、映画のロケ地巡りがしたいとご連絡頂いたことがありました。そこで、実際にスタッフが現地を巡ってみて、車いすでも観光できるコースを紹介しました。このように問合せが多いため、現在、映画のロケ地巡りのバリアフリーマップを作成することを検討しています。



### **◆障害者の方が公共交通を使用する際に困ることは。**

知り合いの車いす利用者の方が、通勤のため路線バスを利用するのですが、どうしても朝のラッシュの時間帯になってしまうため、満員で乗車を断られることがよくあるそうです。物理的にスペースがなく仕方がない場合もあるとは思いますが、乗務員によって対応が違ったりしますので、せめて不快な思いをしなくても済むように、事業者さんには乗務員の方々への教育に力を入れて頂ければと思います。

### **◆まちづくりにも積極的に参加されているとのことですが、これまでの取組について教えてください。**

呉市は全国で3番目にバリアフリー基本構想を策定した自治体で、その検討委員として当初から携わっていました。整備構想を検討する段階では、「心のバリアフリー化の推進」を入れて頂きたいと強く要望しました。障害者の社会参加推進活動を行ってきた体験から、その必要性を強く感じておりましたので、結果的に取り入れて頂くことができ大変感謝しております。

基本構想が策定され、具体の事業を進めていく段階で、駅前のエレベーターが外から内部が見えないような従来型のエレベーターで計画されているということが分かりました。障害者や女性にとっては、外から中の様子が分からない密室型のエレベーターは恐ろしいと思います。既に着工直前ではありましたが、外から中が見える「シースル型」のエレベーターに変更して頂くよう各所に働きかけた結果、行政や市議会議員、事業者の



方々のご協力を得て、呉駅に設置されたエレベーター3基は全てシースルー型にして頂く事ができました。これは、全国の交通バリアフリー法に関係するエレベーターの中ではシースルー型の第一号となり、また、2001年に策定された移動円滑化基本構想のガイドラインにも取り入れて頂いています。



点字ブロックの大切さをアピールする  
シール貼り

しかし、エレベーターが設置されたのはよかったのですが、しばらくするとエレベーターの入口付近やそこに続く点字ブロックの敷設された歩道に、違法駐車バイクや自転車が置かれ、せっかくのエレベーターが使用できないという事態が起きました。そこで、バリアフリー研究会が中心となり、小学校・中学校・行政等多くの機関と協力してビラ配りなどの啓発活動を行ったことで、違法駐輪はほとんどなくなり、再びエレベーターが使用できるようになりました。

その他にも、実際に車いすで街に出て使いにくい道や危険な道が無いか検証するなど、市民や行政と一緒に色々な活動を行っています。

#### ◆今後、力を入れていきたいことはありますか。

これまでは、どちらかというと身体障害者の方の目線でまちづくりに携わってきましたが、これからは精神障害者の方が職場や社会に溶け込んでいくためのサポートをしていきたいと思います。精神障害は見た目では判断しにくいので、周囲の人になかなか理解してもらえないという悩みを抱えておられる一方で、周囲の方々も、精神障害の方に対してどのように接すれば良いのか悩んでおられます。お互いにとって生活しやすい環境になるよう、カウンセリング等を通して働きかけているところです。

NPO法人 呉サポートセンターくれシェンド

HP : <http://www.kuresc.net/press/>

呉バリアフリーツアーセンター

HP : <http://www.kuresc.net/ut/>



くれシェンドのマスコット

「うさかな」

#### \* 編集後記 \*

街をよりよくするために、みんなを巻き込んで活動しようという熱意がひしひしと伝わってくるインタビューでした。森さんはプライベートでも車いすマラソンに30年以上連続で出場されていたり、真っ赤なスポーツカーを颯爽と運転されていたりと、とてもパワフルでエネルギーあふれる方です！